三里塚通信

第44号
70・9・19
発行所 成田市大清水158 大清団結小屋

三里塚人民抑圧空港粉砕
帝国主義ブルジョワ政府打倒!!

政府−公団−収用委−官憲の縦横の死活をかけた攻撃に抗して今秋の空港建設の実力粉砕の徹底抗戦を!

財産をなげうって斗いぬく

（反対同盟副委員長）石橋

三里塚現地は、今、官憲による二四時間の監視の中にある。空港建設に関する事業の新たな段階の中で、公団のガードマン約50名は三里塚現地の各所に姿を現し、現地縦横に又は囲むように体制を整えトランシーバーで連絡をとり、成田警察の私服約30名は、乗用車で各所にはり込み、何事か起これば一時間ほどで機動隊二〇〇名がすぐさま現地にかけつけるという状態である。

この状態"は、三里塚斗争の"キビシサ"を物語ると共に、現地では"日常的"でもある。この"キビシイ日常"はブルジョア社会がかもし出す種々の幻想を打ち砕くに十分である。この日常は 実は三里塚現地の特別な"日常"ではなく、あらゆる地域、あらゆる場所に貫徹されていることを私達は知らねばならない。

9月16日 機動隊二〇〇が瀬利副委員長の自宅をおそう!

横堀部落にすむ瀬利副委員長の自宅を二〇〇名の機動隊がとり囲み家宅捜査が強行された。

同部落は三二〇〇M滑走路のド真中にあたり、去る9月11日、空港公団ら3名が「高低差測量」として現地に立ち入り、瀬利副委員長らの畑を故なく荒らし、測量しようとしたことに対して、反対同盟はすぐさま緊急動員し、抗議し粉砕した。

その斗争に対して9月16日家宅捜査として二〇〇の機動隊を動員して行なったものである。同日、亀出一帯にドラムカンが鳴りひびき30分くらいで約三〇〇名の反対同盟が結集。敵を迎えうちし追いちらした。

馬脚をあらわした収用委高会

9月1日、2日、千葉県土地収用委員会の計画した第二回、三回審理なるものは、政府公団、県当局、県収用委の一体となったゴマカシと全くの茶番であり、粉砕する対象以外の何物でもない。そのことを反対同盟の二日間の総動員一七〇〇名の粉砕斗争がますます鮮明にうきあがらせた。

今回審理によって、一日二日の審理にかけられようとした土地が七畝二歩という狭いものであるとしても特にこの土地が四〇〇〇M滑走路建設にとって決定的地点を占めている事実が政府公団にとって全くの障害物であることにとどまらず、買収収奪が進まぬ障害物でもあり、又、工事の進行にとっても障害物となっているのである。

この「三里塚のトリデ」をくずさんと、三里塚人民抑圧空港設置に向け、政府、公団はこの「第二回、第三回審理」の強行をもって一気に粉砕にもちこまんとしていた。

当日の「会場警備」なるものは万全であった。機動隊三〇〇、私服五〇、県庁警備団、女子警官など配け、会場をとり囲むように配備されていた。

反対同盟はバス11台、乗用車十数台、計九〇〇名の大動員をもってこれに答え、隊列を整えた。反対同盟、各団体は会場までデモ行進し、シュプレヒコール他抗議をくり返し、三項目の要求 ① 四八〇通の通知は不当である。② 会場内から土地所有者、関係人以外の者（私服など）を排除せよ。③ 全員に意見を述べさせよ、をつきつけた。我々のしつような抗議と追求に狼狽した収用委は、突然全員立ちあがり逃亡せんとしたのである。

一貫したふとどき千万な収用委の行動—無様な為たらずな者をいからせ、現地農民の運命を決めようとする行動—「君たちの運命は我々ブルジョアジーが握っているのだとする行動—を我々が許すはずがなかった。痛快にウーッと追いよせ、またたくまに収用委は粉砕されたのである。　二日目はすでに斗争結果は決まっていた。収用委はメタメタに粉砕されたのである。

さて、この斗争の中で、収用委員長高会長は「[illegible]」なるものを書きしたといっていたが その文書は「審理進行に関するトラの巻」であった。トラの巻によると、一條審理の内容など問題にしていないことは明らかであり、終始明らかであり、書かれていることは収用法のあれやこれやを駆使して、いかに結審に持ちこむの、理進行に関する技術ないし戦術であった。「少人数に発言させ、そして結論として土地収奪を強行する。」ことまでの路線が書かれ、それをもってすれば手失にも収用委の会長になれるようなものである。

現地の人が審理に応じ発言し、自分の主張を述べても、彼らにとってその内容は関係ないことなのである。彼らにとって必要なことはただひとつ「審理し意見を聞きました」という既成事実だけなのだ。審理を粉砕され、彼らはもう一度10月中旬に審理をするという。

彼らは次のように言うに違いない。

①「わたしたちはあらゆる努力をし、正常な審理を行なおうとしてきました。私たちは死ぬほどの努力をしてきた。」と—。

そして、我々がもし審理に整然と応じた場合、いずれ彼らは次のように言うだろう。

②「この審理は成立しました。土地所有者、関係人ならびに起業者側の意見を十分聴取しました。私たちは公平な判断を下さねばなりません。収用委員会は十分審理した結果、次の結論に達しました。土地所有者、関係人は、土地を〇日を期限としてあけわたし、起業者は×××の保償をするため×××のことをすること。

我々が応じなかった場合はどうか。

③「私たちは、あらゆる方法で正常な審理を行なうために努力してきました。すでに第一回審理によって起業者の意見を十分聴取し、又、土地所有者関係人についても意見書を提出してもらっております。本収用委員会は、この異常な事態に土地所有者・関係人が出席しないことは、すでに意見を言う意志がないものと認めます。よって、十分公平に審理した結果、次の結論に達しました—。」

すでに、金の為には何でもする彼らの「結論」なるものは見えすいている。

資本主義社会のすべての幻想は ときはなたねばならぬ。

それでは我々は何をしなければならないのか？すでに明らかである。我々は空港建設の結果の中からその原因を見た。幻想共同体としての国家を見た!。この社会の矛盾を擬直的に何も解決できない帝国主義ブルジョア政府を見た。

我々は、現地からの大動員をもって、審理のギマン性をバクロし、粉砕しぬくところの、ますます成田に迫る斗いを組織するのだ!!

万難を排して 審理=土地強制収奪を 実力で粉砕せよ!!

なお、8・26収用委現地立入り阻止斗争で3名の同志が逮捕され、9・1、2の斗争を理由にして、4名が不当逮捕された。権力の弾圧と断固抗斗するものである。

× × × × × × × × ×

現地における工事は進んでいる。第一期工区とよばれる四〇〇〇M滑走路、ターミナルなどの建設工事は、今最盛期を迎えようとしている。ジャリトラは資材輸送道路を通って、一分間に数台、ある時は数十台もいききしている。空港用地内には、うず高くジャリが積まれている。現地で動いているブルなどの機械は、二〇〇台余り。働く者は一〇〇〇名ほどいると思われる。

夜、昼なしの突貫工事体制に入っている。現地にあるその中枢部は駒井野にある空港公団である。

我々は、現実土地の収奪に対して斗わねばならないだけでなく、この工事の進行を見逃すわけにはいかない。

さて、第二期工区へ（二五〇〇M、三二〇〇M滑走路建設）の方まで、資材輸送道路建設工事が進んでいる。　して、[illegible]ニュースソースによれば、9月25日ごろから10月10日ごろまでに、第二期工区内の土地収奪と、反対同盟切り崩しのため、測量が用意されてるという。

我々は、空港関連事業—土地収奪審理、収用法—測量—空港建設工事に関する全面的な実力阻止斗争を、本格的に準備し、貫徹しなければならない時まで来ている。「明年4月開港」の野望はすでに粉砕され、千葉県知事、並びに空港公団は、口をそろえて、公式に「成田空港の開港は半年遅れる」「明年九月に開港目標」と言っている。

実際のところメドが立たないわけであるが、我々が実現せねばならぬのは、全面的な空港粉砕なのである。

この現地の情勢の中で、反対同盟副委員長はしっかりとした言葉で言う。

「財産をなげうって斗うっ!」と。